

事業所名 グループホーム倉敷
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成17年12月28日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A: 現職 生活指導員
資格・経験 介護支援専門員、ホームヘルパー2級、社会福祉主事、訪問介護員
B: 現職 元介護支援専門員
資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

交通至便な市街地の中にあつて旧天領の面影を残す農家や田んぼがあり、広々とした景観が楽しめるロケーションである。国道2号線も近く車でのアクセスは良い。

近隣にスーパー・郵便局があり、ごく近くには関連施設の医療機関もある。緊急時には直ちに対応ができ、安心して快適なシテイライフを送ることが出来る。

個室専用トイレも含めトイレが8箇所備えられ、各居室には洗面台も設置されている。生活の利便性を重視し、全体的に清潔で整然としている。スタンドグラス等の採光にも工夫がなされており、特に食事時のテーブルは明るくするなど人に優しい空間が随所に見られる。

倉敷東部の市街地に、地域に先駆けてサテライト的に設置されたグループホームである。法人母体は複合福祉施設を総合的に運営しており、地域交流は密接で社会参加も積極的に行っており、それが生活リハビリとなっている。

特に食事作りについては入居者自身による自作メニューを取り入れ、買物も職員・入居者共に行く。各々の作業には当番制を取り入れ、役割分担と責任性に配慮し生活にメリハリを与えている。

入浴については夕食後ゆっくり入る夜間入浴等、一般日常生活のスタイルに近く、認知症の進行防止に役立っている。希望により昼間の入浴も自由に行える。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

特に指摘する改善点は見られないが、ご家族・地域の声等気軽に聞かせてもらえるような意見箱が設置されるならば、対話・交流に加え信頼関係もより深まり、安らぎと豊かで生き生きとしたホーム生活に繋がるものと思われる。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か(記述)</p> <p>接遇委員会を設けて3つの約束を掲げ、具体的目標(花を飾る、挨拶、食事の提供)を定めてケアの質向上を目指している。</p> <p>料理は入居者の自作メニューで、買物も職員と一緒にいき、本人の自主性・社会性を回復するように努めている。</p> <p>毎月積立をして、年一回入居者・職員・家族共々泊旅行に行き、共同生活の親睦と職員との人間的交流を図り、ホーム生活に潤いと豊かさを与えるようにしている。</p> <p>職員はQOLと書かれたトレーナーを着て、常に生活の質向上に精励している。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)</p> <p>ソファとテーブルは随時組み合わせを変えている。入居者の方々が数人ずつ一緒に談笑しており、畳のコーナーには障子も備えてあり、堀炬燵に入ってくつげる空間を作っている。その時の雰囲気・気持ちにより、自分の居場所を変えて自然に過ごすようにしている。</p> <p>BGMを静かに流し、心が落ち着いて困楽作業ができるような雰囲気作りをしている。</p> <p>食事の時はテーブルを明るくするなど照明にも心を配っており、スタンドグラスを通しての採光は素晴らしい、生活を生き生きと豊かにしている。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)</p> <p>入居者個人の経歴・特性を生かして当番制を設け、参加・責任分担を持ってもらっている。食事メニューも入居者本人の自作としており、材料の買入れの時に職員と一緒にいき、仲間と共に生きていく共同生活を楽しむようにしている。</p> <p>三つの約束に掲げているように、「訪室時のノックと許可」など、人格を尊重し、心豊かで生き生きとした生活につながる事を目標に努力している。</p> <p>呼びかけは姓名を基本としている。個人よっては家族の了解の下に慣れ親しんだ愛称を使い、本人への尊敬と親密性を相計っている。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)</p> <p>職員のケア向上と共同生活の活性化に向けて、食事・接遇・レクリエーション等、併設施設との各種委員会に参加し、各々その目標実現に取り組んでいる。</p> <p>研修・勉強会は、併設施設と合同で毎月介護の基本等、専門的な課題について講師を招き研修し、年間スケジュールを定め読意研鑽を積んでいる。</p> <p>軽微な事故も個人記録に残し、ヒヤリハットの場合も職員間でよく討議研究し再発防止につなげるよう職員全員で努力している。</p>		